

農業×IT

～情報技術を用いて農業の担い手不足を支援～

広島市立大学 情報科学研究科 博士前期2年 野田 楓稀, 情報科学部4年 半間 諒,
情報科学部3年 岩室 怜弥, 情報科学部2年 藤田 太陽

概要

チーム名：ファムチャ
連携団体 JA広島市（広島市農業協同組合）
アドバイザー：情報科学研究科教授 西 正博

背景

現状：広島市の就農者数は減少傾向にある。

広島菜に限れば10年で新規就農者が4人

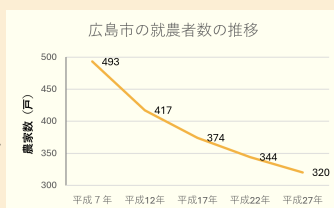
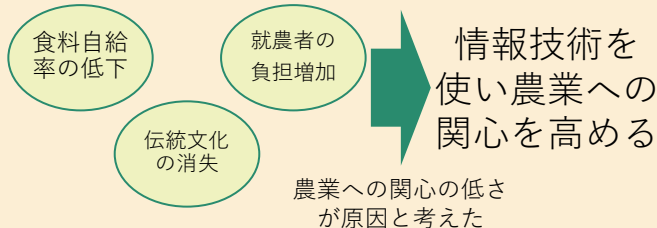


図1：広島市の就農者数推移
(データ元：広島市統計書、旧市町村別農家数、農業就業人口及び経営耕地面積)

就農者が減ることによる問題



広島菜について

広島菜は川内の特産であり、九州の高菜、信州の野沢菜と並ぶ日本三大漬菜のひとつである。味はピリッとした辛みを持ち、主に漬物として加工されることが多い。また、広島菜の旬は11月から2月である。

栽培に関しては播種後、約75日から90日程度で収穫する。広島菜の特徴として長年、自家採種を続けている。そのため農家さんごとに草姿に個性がある。



図2：広島菜圃場, 図3：広島菜



活動紹介

Webアプリの制作

- 広島菜の栽培に関する動画の視聴
- 児童が興味を持ち、楽しんで学習
- 全国で広島菜のことを学習可能

開発の流れ

- 圃場で農作業の体験、動画撮影
- JA広島市、農家さんと話し合い
- 週2回の定例会議で、意見交換、進捗共有



図4：収穫をお手伝いしたときの様子

工夫

- 回転するボタンやポップなイラストで児童が楽しめるデザイン設計
- 動画に合わせた色使いで使いやすさを工夫
- 広島菜の特徴や育て方、収穫の様子を映像で分かりやすく伝える
- 映像の切り替えやテロップの挿入、ナレーションの追加など、視覚的な工夫

成果物

QRコードからWebアプリにアクセス



ふりかえり

今回の活動は農業をテーマにしたこともあり、初めての経験で溢れていた。開発を行う経験も貴重だが、広島菜という広島の伝統に関り、広島菜、農業の魅力について、肌で感じられたこと、それによって農業が好きになったことが、この活動一番の成果である。